

国語科学習指導案

日時：平成30年9月29日（土）1時間目

児童：礼文町立香深井小学校

第3学年 2名

第4学年 4名

指導者：〇〇 〇〇

1 単元・教材名

3年生 「詩を楽しもう」

4年生 「詩を楽しもう」

夕日がせなかをおしてくる/ゆうひのてがみ/
いちばんぼし

いろいろな詩/おおきな木/とびばこ だんだん

2 単元・教材について

3年生「詩を楽しもう」

3年生のこの時期の児童は、元気いっぱいである。元気の良さとともに特徴的なのは、自我の芽生えである。これまで、自分中心であったのに対し、相手の視点で自分を見つめたり、客観的に自分を見つめ直したりするようになってくる。

『夕日がせなかをおしてくる』は、大きな自然の象徴である太陽と、ぼくらが話しかける様子を、おおらかに描いている。夕日（太陽）に対等にどなり返す子どもの無邪気さ、おおらかさが楽しい。

『ゆうひのてがみ』は、坂道を上ってくる郵便屋さん、その背には真っ赤な夕日、坂道の両側に連なる家々、そんな静かな情景が想像できる。夕日の温かさの中、郵便屋さんや家々にもとめる「ひ」の温かさを見つめている自分の存在が重要である。「ゆうひを すこしずつ ちぎって」「ぼっと ひがとめる」などの表現から、沈みつつある夕日の中、家々の窓の灯がとめる美しさがはっきりと浮かんでくる。絵画的なイメージを呼び起こすのが、この詩の魅力である。情景のすばらしさを見事に表現している。

『いちばんぼし』は、いわゆる「宵の明星」といわれる金星であろう。もちろん他の星でもかまわないが、日の暮れるころ、最初に輝いている星である。先の二編と同じ、夕方の情景である。ただ、単なる情景でないのは、二つの視点の転換があるからである。まず、一連で「うちゅうの/目のようだ」と、とらえる点である。この比喻表現が情景描写を飛び越えて、一種形而上学的な響きを奏で始める。それを受けて、二連では「ぼくをみている」と、断定する。もはやここでは「ようだ」ではない。ぼくが「いちばんぼし」を見ているにもかかわらず、ぼくは「見られている」対象となる。自分の存在を問われているとも言えようか。その点では、先の二編とは異なって哲学的な作品とも考えられる。しかし、そこまで深読みせず、見ている「ぼく」が見られている「ぼく」になる。その視点の逆転を楽しむだけがおもしろい。

いずれにしても、それぞれに夕方の時間を象徴的に表した作品である。「一日の終わりである夕方、子ども達はどんなことを感じ、そんなことを思い出すだろう。これらの作品をとおして自分に向き合うことができるだろう。言葉から想像される情景を想像しながら声に出して読み合うことで、自分と相手、また、今まで以上に広がる世界を感じ合うことができる。

今回の授業では、言葉に沿って読み深めることで、短いけれど厳選された言葉を使って美しい情景を想像させる『詩』の世界を、楽しませたい。

4年生「詩を楽しもう」

一行を中心とした短い詩と、変わった形の詩に、「えっ、これでも詩なの？」と、児童はまず驚くだろう。短いけれども数行で構成されているものが詩であるという、詩に対する既成概念を打ち砕き、「詩」というものに対する概念の枠を広げていくことが、この単元のねらいの一つでもある。

したがって、『おおきな木』や『とびばこ だんだん』のような視覚的な効果をねらった作品や、方言(大阪弁)を用いた詩を取り上げることで、さらに自由な詩の世界を味わわせることができる。児童は、新鮮な気持ちで本単元の作品たちに出会うことだろう。

一行詩のような短い詩の場合、その生命は、見立てやウィット、言葉の飛躍と新鮮さである。一読して「なるほど」「おもしろい」と反応できる作品がある一方で、一度読んだだけではわからないが、繰り返し読むことによって、その世界がはっきりしてくる作品もある。ふだん、なにげなく目にしているものが、詩人の目をおすことによって違った姿を現してくる。日常の中では見過ごし、忘れられているものに新たな光を当て、命を吹き込んでいくのである。そのような活動をとおして、驚きや発見、ものをみつめる目の豊かさと広がりが生まれてくるのである。

4年生のこの時期、このようなさまざまな詩にふれることは、詩に親しみ、詩の世界を広げていくうえで、大変意味のあることだと思われる。詩のおもしろさ、詩を読む楽しさを味わわせたい。

3 児童の実態・・・省略

4 校内研究との関わり

本校の研究テーマ 「主体的に学びを深めていくことのできる子どもの育成」
～楽しくわかる授業づくりを通して～

仮説1 個に応じた指導・支援を充実させることで、学習内容を正確に理解させることができるだろう。

仮説2 課題解決に向けて主体的な活動を行うことにより、学びを深めることができるだろう。

<手立て>

<3年生>

仮説1に関わる手立て

・ポイントとなる言葉に着目させることで、詩の情景や様子を想像することができるだろう。

仮説2に関わる手立て

・読み取った情景や様子をペープサートを使って確かめることで、より詩の世界を深く楽しむことができるだろう。

<4年生>

仮説1に関わる手立て

・読み取りの時間をていねいに扱うことで、詩の特徴である詩の題名とイメージからくる言葉に関連づけてとらえることができるだろう。

仮説2にかかわる手立て

・読み取った詩の特徴や工夫を使って、自分で詩を作る活動を取り入れることで、より詩のおもしろさや魅力を感じるようになるだろう。

5 単元の目標

3年生

○音読したり、イメージを広げたりして、詩の世界を楽しむ。(読む)

4年生

○さまざまな形の作品を読みながら、詩の世界を楽しむ。(読む)

6 単元の評価規準

3年生

○作品の情景を思いうかべて、イメージを広げることができる。

4年生

○それぞれの作品の特徴や良さをとらえながら、詩の世界を楽しむことができる。

7 指導計画

< 3 年生 >

時	○ねらい	◇主な学習活動	■評価規準□評価方法	備考
1	・『夕日がせなかをおしてくる』の様子がよく伝わるように音読する。	・『夕日がせなかをおしてくる』を読み感じたことを発表する。 ・夕日とぼくらにわかれて、音読し合う。	■様子を想像し、工夫して音読している。 □発表・音読・ノート	・夕日の映像または写真
2 (本時)	・『ゆうひのてがみ』の情景を想像し、詩の世界を楽しみながら、音読する。	・『ゆうひのてがみ』を読み、情景を想像する。 ・想像した情景を、ペープサートを使って確かめる。 ・『ゆうひのてがみ』を読み深めた感想を交流する。	■様子や情景を想像することができる。 ■ペープサートを使って、読み取った情景を確かめることができる。 □発表・ワークシート	・ワークシート ・情景小道具
3	・『いちばんぼし』を読み、作品のおもしろさについて交流する。 ・自分の気に入った作品を選び、音読する。	・『いちばんぼし』を読み、感想を交流する。 ・三つの詩を読んで、一番気に入った詩を音読し、気に入った理由について発表する。	■様子を想像し、工夫して音読している。 □発表・音読・ノート	・一番星の映像または写真

< 4 年生 >

時	○ねらい	◇主な学習活動	■評価規準□評価方法	備考
1 (本時)	・「いろいろな詩」の作品の特徴をおさえて、それぞれの作品の読みを楽しむ。	・作品の工夫やおもしろさを読む。 ・題名(物)から浮かんでくるイメージを発表する。 ・いろいろな詩をまねて、詩を作ってみる。	■作品の特徴をおさえて、作品のイメージを広げることができる。 ■一行詩を考えることで、詩の世界を楽しんでいる。 □発言・ワークシート	・イメージ写真 ・ワークシート ・イメージカード
2	・「大きな木」「とびばこ」の2つの詩の特徴や工夫をおさえて、それぞれの作品の読みを楽しむ。	・それぞれの作品の特徴や工夫のおもしろさを読む。 ・2つの詩の工夫をまねて詩を作ってみる。	■作品の特徴に気付き、それぞれの作品を楽しんでいる。 □発言・発表・ノート	・詩の原稿用紙 ・ひらめきカード

8 本単元に関わる児童の実態と支援計画・・・省略

9 本時の指導計画

◎本時の目標

< 3年生 >

- ・詩の世界を楽しみながら、『ゆうひのてがみ』の情景を想像する。

< 4年生 >

- ・「いろいろな詩」の作品の特徴をとらえて、詩の世界を楽しむ。

◎本時の展開

時	教師の働きかけ	第3学年学習活動	わり	教師の働きかけ	第4学年学習活動	時
課題把握 (8分)	○今日の課題を知らせ、『ゆうひのてがみ』を読んで、登場する人や物、場所、イメージされる色などについて考えさせる。	1 課題を把握する。 ○『ゆうひのてがみ』を読み、出てくる人や物、場所、イメージされる色などを考える。 2 場面を把握する。		○本時の課題を提示する。	1 課題を把握する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ④いろいろな詩の特ちょうや工夫を考えよう。 </div>	課題把握 (8分)
	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> ④『ゆうひのてがみ』の様子を考えよう。 </div>	(出てくる人や物) ・ゆうびん屋さん、夕日、家 (場所) ・坂道 (イメージする色) ・オレンジ色 ・赤 (詩のイメージ) ・やさしい～お手がみを配るから ・あたたかい～夕日が当たっているから ・きれい～夕日がきれいだから	○詩を提示する。	2 詩の特徴を考える。 ○詩を読んで気付いたことを発表する。 ・5つ ・短い。 ・題名の他に1行しかない。 ・表現がおもしろい。		
解決・努力 (8分)	○わかったことを発表させながら、詩の背景を確かめる。(仮説2に関わって)	○わかったことや想像したことを発表する。		○題名から、なぜこの内容になったのか考えさせる。	3 詩の内容を考える。 ○ワークシートに読み取ったことを書く。 ・ニンジン～お風呂に入って、赤くなった。 ・ケムシ～毛がぼうぼうで伸びっぱなしだから。 ・ミミズ～みみずは、土の中にいつも裸で住んでいるから、土がシャツの役割なのかな？ ・へび～すごく長くて、ビックリしたから。 ・ミドリカナヘビ～色がペンキを塗り立てみたいに鮮やかできれいだから。	解決・努力 (8分)

<p>解決・努力 (10分)</p>	<p>○ 比喻表現が使われている部分に着目させ、その意味を考えさせる。</p> <p>・ ヒントカードを提示する。</p> <p>☆ 夕日と坂道と郵便屋さんの位置関係を表したカード</p> <p>☆ 「きりがみ」「ちぎる」の意味</p> <p>☆ 夕日が沈む映像 (タブレット)</p> <p>☆ 「ひがともる」の意味</p>	<p>3言葉から様子を考える。</p> <p>○ 「ゆうひをせおって」とは、どんな様子なのか考える。</p> <p>・ 夕日が坂道を上っている郵便屋さんの後ろから当たっている様子。</p> <p>○ 「まるできりがみのように～」とは、どんな様子を表しているのか考える。</p> <p>・ 郵便屋さんがお手紙を配っている間に、どんどん夕日が沈んでいく様子。</p> <p>○ 「ぼっとひがともる」とは、どんな意味なのか考える。</p> <p>・ 夕日が沈んで暗くなったので、家の電気が付く様子。</p>		<p>○ 発表させる。</p> <p>○ いろいろな詩の特徴をまとめる。</p>	<p>○ 発表する。</p> <p>4詩の特徴や工夫をまとめる。</p> <p>・ 一行詩である。</p> <p>・ 色や見た様子から思い浮かぶイメージを短い言葉で表現している</p>	<p>解決・努力 (10分)</p>
<p>定着 (10分)</p>	<p>○ 発表させる。</p> <p>○ 場面の設定をし、読み取った詩の様子をペープサートで確かめる。</p> <p>(仮説1・仮説2に關わって)</p> <p>・ 夕日 (ライト)</p> <p>・ 郵便屋さん</p> <p>・ 家々の模型 (電気が付くしかけ)</p>	<p>○ 考えたことを発表する。</p> <p>4読み取った様子を確かめる。</p> <p>○ 読み取った詩の様子をペープサートで再現する。</p>		<p>○ 「うに」と「ばなな」をテーマに1行詩を考えさせる。</p> <p>(仮説2に關わって)</p> <p>・ 色や形、見た目の様子からイメージを広げることの良い例、悪い例を挙げて確かめる。</p> <p>(仮説1に關わって)</p> <p>○ いろいろな詩の特徴や工夫をまねて、一行詩を考えさせる。(仮説2)</p>	<p>5詩を作る。</p> <p>○ 「うに」と「ばなな」をテーマに写真を手がかりにイメージをふくらませ、1行詩を作る。</p> <p>・ うに 　　いたいよう! 　　海のまっくろくろすけ</p> <p>・ ばなな 　　おさるさんの船 　　落ちてきた三日月</p> <p>○ いろいろな詩の特徴や工夫をまねて、一行詩を作る。</p>	<p>発展・応用 (14分)</p>
<p>まとめ (9分)</p>	<p>○ ワークシートに感想を書かせる。</p> <p>・ 感想を書きやすいように、項目や書き出しを提示する。</p> <p>(仮説1に關わって)</p> <p>○ 感想を発表させる。</p>	<p>5まとめをする。</p> <p>○ 感想をまとめる。</p> <p>・ お手がみをいれるごとに夕日が沈んで小さくなっていくところがおもしろかった。</p> <p>・ すごく夕日がきれいな詩だなあと思った。</p> <p>・ 夕日が沈んで郵便屋さんが帰ったあと、お家の窓に、電気がつくところがすてきだなあと思った。</p> <p>○ 感想を発表する。</p>		<p>・ ひらめき写真集の提示 (仮説1に關わって)</p> <p>○ 感想を発表させ、評価する。</p>	<p>○ できた一行詩を交流する。</p> <p>6まとめをする。</p> <p>○ 感想を発表する。</p> <p>・ 色や形からいろんな言葉が思い浮かんでおもしろかった。</p> <p>・ ～の詩がとても気に入っている。</p> <p>・ ○○さんの～の詩がすてきだなあと思った。</p> <p>・ 私は～と思ったけど、○○くんは～思ったのにびっくりした。</p>	<p>まとめ (5分)</p>

◎本時の評価

<3年生>

- ・『ゆうひのてがみ』を読んで、情景をそうぞうすることができる。
- ・読み取った情景をもとにペープサートに再現し、感想を持つことができる。

<4年生>

- ・作品の特徴やおもしろさについて考えることができる。
- ・題名(物)から浮かんでくるイメージから1行詩を考えることができる。

10 板書計画

(3年生)

めあて 『ゆうひのてがみ』の様子考えよう。

ゆうひのてがみ

(出てくる人や物)
・ゆうびんやさん、夕日、家
(場所)
・坂道
(イメージする色)
・オレンジ色
・赤
(詩のイメージ)
・やさしい手がお手がみを配るから
・あたたかい夕日が当たっているから
・きれいな夕日がきれいだから

ゆうひを せおって

・夕日が坂道を上っている郵便屋さんの後ろから当たっている様子。

まるで きりがみのように

・郵便屋さんがお手紙を配っている間に、どんどん夕日が沈んでいく様子。

ぼっと ひがともる

・夕日が沈んで暗くなったので、家の電気が付く様子。

(4年生)

めあて いろいろな詩の特ちょうや工夫をみつけて、詩を作ってみよう。

いろいろな詩

『いろいろな詩』の特ちょうや工夫

・短い(一行詩)
・色や形、見ための感じから、想像したことを短い言葉で表現して

ニンジンの写真
・お風呂に入っ
て赤くなった

ケムシ
・毛がもじゃも
じゃ

ミミズ
・土の中に住ん
でいるから

ヘビの
写真
ヘビ
・長くてびっく
りしたから

カナヘビの
写真
ミドリカナヘビ
・色があざやか
だから

☆詩を作ろう!
うに

ばなな

ばななの写真

うにの
写真